

海外事務所だより

シドニー事務所

クレアフォーラムで得たもの
～地域活性化と地域の資源～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐 大河内 美和 (和歌山県和歌山市派遣)

2014年度クレアフォーラム

去る11月27日、シドニー工科大学において、2014年度クレアフォーラムを開催しました。

クレアフォーラムとは、クレアシドニー事務所が主催し、日本、オーストラリア、ニュージーランドの地方行政に関わる方々との意見交換を通じ、関係国における地方自治の発展や、相互理解、友好親善の促進を目的として、1995年より毎年開催しているものです。



クレアフォーラムの様子

今回のフォーラムは、「地域の活性化」というテーマを柱に、「地方の魅力ある特産物と観光の情報発信」と「地方に人を惹きつける」という2つの視点から6人が発表を行い、議論が行われました。

当日は、豪州地方自治センター(注)のRoberta Ryanセンター長を進行役に迎え、北海道厚岸町の姉妹都市であるタスマニア・クラレンス市のJames Walker議員、豪州地方自治センターの

Alex Gooding氏、当事務所の所長補佐4人の発表者に加え、約40人の聴衆がクレアフォーラムに参加しました。

地方の魅力ある特産物と観光の
情報発信

このテーマに関しては、効果的に地域の魅力を伝えるためには、自分のまちの強みは何なのか自治体自らが考え、積極的に情報発信に取り組んで行く必要があるのではないかといった発表があり、参加者の間で議論されました。

ここで、日豪両国の取組事例をいくつか紹介します。

・短期滞在型の農業体験施設 (クラレンス市)

都市部との交流人口の拡大を狙い、農業自体を観光資源と捉え、農業体験をしてもらう施設を整備。同時に、その土地の特産物をお土産として持ち帰ってもらうほか、居住地のスーパーやインターネットを通じて購入してもらうなど、販売促進も図る。

・住民、観光客参加型の観光イベント (青森県)

青森県の田んぼアートなど、行政が発案し住民や観光客に参加してもらい、皆で地域を盛り上げていくイベント。

・地域の特産物を売り出す (和歌山県)

その地域で作られた特産物を、自治体が後押しをして、さまざまな手法を用いて県外へ売り出していく取り組み。



芝所長補佐による発表

地方に人を惹きつける

このテーマに関しては、地域に人を呼び込むためには、さまざまな分野での発想の転換や、その土地の文化や人々を資源と捉え大切にすることが重要ではないかといった発表があり、参加者の間で議論されました。



平澤所長補佐による発表

発表の中で紹介された事例は以下のとおりです。

- ・地域文化や人材の捉え方（豪州地方自治センター）

地域経済の発展の鍵として、その地域における文化やそこに暮らす人々を貴重な資源だと捉えて活かすこと。

- ・共有型リーダーシップ（豪州地方自治センター）
一人だけをその自治体のリーダーとして捉えるのではなく、施策の分野ごとにリーダーを置き、役割を与え、組織内の人材を最大限活かすこと。
- ・移住体験や農業研修事業（北海道鹿追町）

人口減少による空き家住宅が社会問題となっている中で、その空き家を活用した移住体験や女性向け農業研修事業を実施。

- ・新たなビジネスの構築（広島県、北海道鹿追町）
その地域の主要産業である自動車部品の製造技

術を福祉分野で活用。また、家畜のふん尿などを原料としたバイオガスを使った新たな産業の創造。



迫田所長補佐による発表

フォーラムを終えて

「地域活性化」の必要性は言われて久しいですが、従来、さまざまな取り組みを行ってきたものの、どの地域でも苦戦を強いられているのが実情ではないでしょうか。

日本とオーストラリアは、それぞれ置かれた政治情勢や文化、地理も異なります。そのため、日豪両国の取り組みや戦略を直ちに应用することは難しいのではないかと考えていました。しかし、今回、クレアフォーラムに参加して、地域の活性化を進めていく上で、日豪両国にとって共通となるヒントを得られたように思います。また、同時に、「地域の活性化」施策は誰が発案するのが一番良いのかということを改めて考えさせられる機会となりました。

特に私が注目したのは、「経済成長を持続している都市は、その地域の文化やそこに暮らす人々を貴重な資源だと捉えている点が共通している」という Alex Gooding 氏の発言でした。



聴衆との意見交換の様子

改めて地域に目を向けてみると、さまざまな資源が潜んでいるように思います。その土地ならではの産業、文化、風習、伝統芸能、祭り。これらは、その地域に住む人々が自分たちの地域を育てるため、受け継ぎ、大切に守ってきたものです。

その本当の魅力に着眼し、施策として発案できるのは、その地域に暮らし、産業を担い文化を守る人々ではないかと感じました。

従来のように、「地域の活性化施策はこれだ」ということを公的機関が決め、推し進めていくことは、必ずしもそこに暮らす人々が求めている姿になっているとは限らないのではないのでしょうか。



清野所長補佐による発表

今回のクレアフォーラムで紹介があった農業体験事業、田んぼアートなどの事例のように、そこに暮らす人々の「我がまちを盛り上げたい」という想いと、行動力が地域活性化にとって最も必要不可欠なことではないかと強く感じました。同時に、他国における課題を知り、解決策を学ぶことは政策の幅を広げる上でも大変貴重な機会だと思います。

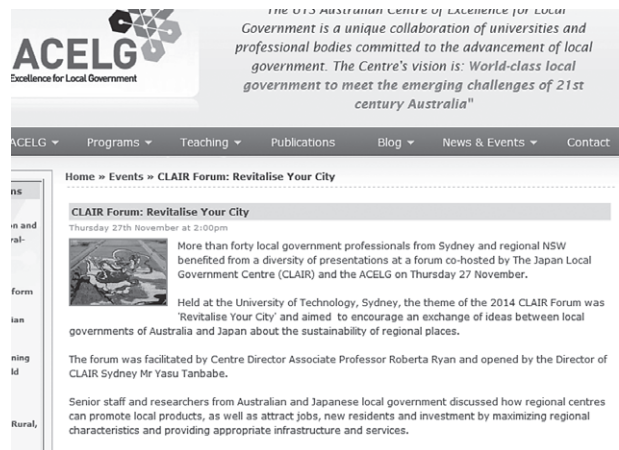
国内の自治体の取り組みだけでなく、他国の取り組みにも目を向けてみると、地方を取り巻く閉塞感から脱出できる可能性もあり、また新たな考え方も示唆してくれるかもしれません。

おわりに

最後になりましたが、進行役を務めていただいたRoberta Ryanセンター長からは、「今回のフォーラムでは、地域の資源を活かしながら、どのように地域活性化の戦略が練られ、いかに周囲の協力を得て魅力ある地域づくりが実現していくのかについて幅広いさまざまな視点からの発表をいただきました。いずれの発表も大変興味深く、発展的な議論をすることができました」とのコメントをいただきました。

今回のフォーラムは、日豪両国において、地域の人材・文化といった資源やリーダーの存在がいかに重要視されているかということを変更して裏付けるものになったのではないのでしょうか。

なお、この様子は、豪州地方自治センターのホームページにも掲載され、オーストラリアの自治体関係者の方々に紹介されました。



豪州地方自治センターのホームページより

(注) 地方自治の研究・政策支援を行うとともに、自治体職員専門性とスキルの向上支援などを行っている機関。

オーストラリア・ニュージーランドに向け観光のPRを ～クレアシドニーのニューズレターを活用してみませんか～

クレアシドニー事務所では毎月1回、オーストラリアとニュージーランドの全地方自治体に向け、ニューズレターを発行しています。その中で、日本の自治体の観光PRにも積極的に取り組んでいます。掲載をご希望の自治体がありましたら、クレアシドニー事務所にご一報ください。お待ちしております。

◆過去の掲載例はこちらです。 <http://www.jlgc.org.au/category/monthly-newsletters/>